

平成27年度入学試験問題（前期）

小論文

（ 教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 社会専修 ）

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙と下書き用紙を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 解答用紙の指定された欄に、学部名及び受験番号を記入すること。
7. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
8. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題

今後の社会のあり方を考えるうえでの課題のひとつに男女共同参画社会の形成が挙げられる。日本では1999(平成11)年に男女共同参画社会基本法が施行され、今日に至るまで様々な取り組みが行われている。

下の図表は、2000年以降のOECD(経済協力開発機構)加盟国における男女の賃金格差の推移を示したものである。

この図表から読み取れる日本の男女の賃金格差の変化と現状を国際比較の観点から説明したうえで、このような状況がいかなる問題を生じさせているか、またこれからの日本社会においてどのような具体的な取り組みが必要か、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

図表 フルタイム労働者賃金の男女差の推移(2000年・2007年・2010年)

著作権の関係上、省略します。

出典: OECD, 2013, 「Chart LMF1.5.A: Gender gap in median earnings of full-time employees, 2010」

(OECD主要統計「性別による賃金差(Gender wage gap)」<http://www.oecd.org/statistics>)に基づき作成。

注: 2010年の数値については、オランダは2005年、ベルギーとアイスランドは2008年、チェコとフランスは2009年の数値をそれぞれ用いている。

用語の説明

賃金格差: 上の図表における賃金格差は、女性と男性の賃金の中央値の差を男性の賃金の中央値で割った数値によって表されている。OECD28カ国平均の2000年の数値(19.5)を例にとると、男性の賃金の中央値を100とした場合、女性の賃金の中央値はそれより19.5低い80.5ということになる。